

令和元年度大台ヶ原自然再生推進委員会
合同現地ワーキンググループ 議事概要

1. 日時 令和元年7月7日(日) 10:00 ～ 16:50
2. 場所 吉野熊野国立公園大台ヶ原
3. 参加者

【委員】

高柳 敦	京都大学大学院農学研究科 講師
松井 淳	奈良教育大学教育学部 教授
村上 興正	元京都大学理学研究科 講師
揉井 千代子	公益財団法人 日本野鳥の会奈良支部 幹事
八代田 千鶴	国立研究開発法人 森林総合研究所関西支所 主任研究員
横田 岳人	龍谷大学理工学部 准教授

【事務局】

環境省近畿地方環境事務所	西 大輔	生物多様性企画官
	戸田 博史	野生生物課課長補佐
	関 貴史	吉野管理官事務所 国立公園管理官
(株) 環境総合テクノス	樋口 高志	環境部 マネジャー
	樋口 香代	環境部 リーダー
	城向 光弥	環境部
(一財) 自然環境研究センター	安齊 友巳	研究主幹
	千葉 かおり	主席研究員
	荒木 良太	主席研究員
	中田 靖彦	研究員
	日名 耕司	研究員
	田中 英輝	研究員

4. 議事

- (1) 今後設置予定の大規模防鹿柵について
- (2) 民間との連携によるニホンジカ大型捕獲柵の設置について
- (3) 今年度調査について

5. 概要：

(1) 今後設置予定の大規模防鹿柵について

- ・ 今後の大規模防鹿柵設置予定箇所のうち、三津河落山付近の⑧はウラジロモミが枯れ始めており、シャクナゲの新芽にシカによる被食が認められていることなどから、設置の優先順位は高い。残りの箇所については、今後4年間で、残り全ての大規模防鹿柵を設置する予定であれば、設置の優先順位はさほど重要ではない。
- ・ 西大台の予定地④、⑤は環境学習として自然再生の効果を見せることを目的としているが、設置後、自然再生の効果が見られるようになるまでには10年近くかかる。環境学習で使うのであれば既存のNo.21柵（ナゴヤ谷、植生タイプVI）など、歩道近くにある柵が利用できる。開拓の⑤は環境学習に使用するには遠過ぎるのではないか。
- ・ 剥皮防止用ネットの設置も早く進めた方がよい。ボランティアによる自然再生体験活動として実施してはどうか。
- ・ 大規模防鹿柵の設置終了後は、林冠ギャップ地における小規模防鹿柵の設置を進める。施工条件と設置する林冠ギャップ地の条件など、戦略を考える必要がある。

(2) 民間との連携によるニホンジカ大型捕獲柵の設置について

- ・ 大台ヶ原は周囲にササという餌がたくさんあるため、捕獲柵内に誘引するのが難しい。設置予定箇所でササ刈りをして（新芽を食べに来る）シカを集めてはどうか。
- ・ 柵内外の餌（ササ）の量の差を大きくして、柵の中が魅力的な餌場であることをシカに認知させれば効率的に誘引できるのではないか。
- ・ 芦生は柵の周辺に餌がほとんどないため、植生保全柵の中が魅力的な餌場となっており、柵の中に入りこんだシカを多数捕獲することができた。
- ・ 「現在これくらいの生息密度のシカを何年間で何頭捕った結果、生息密度がこれくらいになる」、「大型捕獲柵により、周辺よりも相対的にシカの生息密度を減らす」など、大型捕獲柵を設置する理由と目標を明確にして欲しい。
- ・ 大型捕獲柵による捕獲を実施する際に、事前に自動撮影カメラを設置しておけば、捕獲をした結果、生息密度がこれくらい下がったという具体的な成果を出すことができる。効果検証のためにも、捕獲前のシカの生息密度を調べておく必要がある。

(3) 今年度調査について

- ・ ニホンジカの個体数調整については、現在までに116頭捕獲しており、レベル①の目標である106頭は達成している。最終的には捕獲目標レベル②である129頭の達成を目指している。
- ・ 4月の開山前にかなりの頭数を捕獲することができた。開山前はくくりワナを広範囲に設置することも要因の一つであると考えている。来年度は4月のできるだけ早い時期に個体数調整を始められるようにしたい。
- ・ 今年度、レベル①の目標を達成したのは、①（大台ヶ原くくりわな設置に関する対策マニュアルの改訂により広範囲で）開山前に捕獲が始められたこと、②（同マニュアルの改訂により）正木ヶ原で足くくりわなによる捕獲ができるようになったこと、③足くくりわなの空はじき率が低下したことの3点が挙げられるが、生息密度が増加したことも要因として考えられる。

(4) その他

○ ハルザキヤマガラシの駆除方法について

- ・ 除草剤の使用は生態的な影響を周囲だけでなく、下流にも与える恐れがあるため、やめた方がよい。
- ・ 多年草ではないので、種子の供給を無くすることが重要である。この種は開花・結実前に刈り取りすることで枯死する。埋土種子がどれくらい持つかは不明である。
- ・ 駆除をするなら早ければ早いほど効果が高い。

○ 現地視察時の主なご意見

【防鹿柵 No.28 (苔探勝路)】

◆ コケの保全・再生について

- ・ コケの生育環境整備のためには、リターの管理とミヤコザサの管理が必要となる。
- ・ コケの再生については、闇雲にやるのではなく、コケが多い場所の環境をまず調べて、キーとなる条件を探す必要がある。それから対策を検討するのがよい。光や湿度といった環境のモニタリングが必要である。
- ・ 地表性のものと倒木・根株上のものを分けて考えた方がよい。
- ・ コケを回復させるためにササ刈りをするのであれば、沢沿いの風が通る場所など、コケが生育しやすい場所がよい。

◆ 移植苗木について

- ・ 全体的に生育状況(樹勢)が悪いのは、ササとの水分をめぐる競争で負けているのかもしれないので、周囲のササ刈りをするなどのケアが必要となる。
- ・ 枯れている個体は、幹の下方がシカに全周剥皮されていることが原因と考えられる。倒木などの障害物を置くなど、シカが食べにくい状況にしておくのがよい。

◆ テキサスゲートについて

- ・ テキサスゲートでシカに入られないようにするのであれば、深さが 60cm 以上必要となる。現状のものは深さが足りない。山口県林試で実験をしており報告されているので参考にしたらよい。
- ・ 柵の扉については、船舶用のオートクローザーがよい。

◆ 配水池について

- ・ 配水池は、人為により結果的にトウヒが自然に再生している。今後、改修等もあるので、再生した樹木について再調査をしておいた方がよい。

【防鹿柵 No.22 (植生タイプⅦ)】

- ・ 柵内でヒノキのクマ剥ぎが確認された。周辺でも生じている可能性がある。大台ヶ原にはヒノキ天然林もあるので何らかの対策が必要になるかもしれない。
- ・ 入口扉の下隙間からシカが入る可能性があるため、倒木などで隙間を抑えておいた方がよい。

【防鹿柵 No.32】

- ・ 柵内の下層植生は回復しており、ガイドツアーなど自然再生の成果をアピールするには良い場所である。
- ・ 柵内には、モニタリング調査でのみ、入るようにすべき。踏圧などの影響が生じる可能性

があるので、ガイドツアーは外から眺めるので十分かと思う。

【大型捕獲柵設置候補地点】

- ・ 設置場所は観光客に目立たないような配慮をすべきである。
- ・ 近くにササなどの餌があるので、餌環境のコントロールが必要。餌でうまく誘引できるのが課題となる。
- ・ ササ刈りをして、芽吹き状況を作るのであれば、夏までのできるだけ早い時期に実施した方がよい。

【シオカラ谷入口エロージョンの箇所】

- ・ あまり傾斜がなく、林冠ギャップ地なので、周囲を防鹿柵で囲えば植生が回復し、土壌の流出は抑えられる。大規模な工事は必要ない。
- ・ 雨水の流れがあるので、下方1箇所ぐらいは土留めをした方がよい。
- ・ 防鹿柵と土留めを合わせた対策をしてはどうか。

【その他】

- ・ 苗畑の周囲の柵を外したことによってシカの剥皮により枯れた苗木については、見栄えが悪いので伐採することも考えられるが、柵がないとシカの剥皮により枯れることが示される良い例であることから、あえて残しておいて、解説板を立てても良いのではないかな。
- ・ 山の家の下では、剥皮防止ネットのメンテナンスが悪く、新たに剥皮されているウラジロモミがいくつか見られるので、メンテナンスを実施すべきである。

以上、意見の順不同